

養林庵書院

養林庵書院は、平等院の下位寺院である浄土院の境内に位置する居住地であり、江戸時代（1603—1868）初期に建立されました。書院の屋根は檜の皮でふいており、京都にあった桃山城、別名伏見城の残骸が建築材料になったと言われています。

内壁と、襖は絵で飾られています。「床の間」には雪に覆われた風景が描かれていて、襖の一つには籬に梅の図が描かれています。また襖も同様に花や植物の装飾が施されています。これらの作品は、1651 年に京都で亡くなった狩野山雪という著名な画家主催の工房によるものです。

書院の庭園は、細川三斎によるものとされ、京都府名勝庭園に登録されています。

養林庵書院は重要文化財に指定されており、一般公開はされていません。